

第4回 小平市子ども・子育て審議会 会議録	
日時	令和6年3月26日（火）午前10時～11時30分
場所	小平市役所 6階 大会議室
出席者等	<p>子ども・子育て審議会委員 14人（オンライン参加1人 欠席2人） 雨宮美佳、金子恵一、菊地千穂、小宮山一美、神保佳世子、匝瑳友美、竹内よし子、中川都、樋之口容子、福田陽子、町田綾子、森下葉子、山縣弘典、山下健（五十音順）</p> <p>事務局 10人 子ども家庭部長、子育て支援課長、家庭支援担当課長、子育て支援課長補佐、保育課長、保育指導担当課長、保育課長補佐2人、障がい者支援課長、地域学習支援課長</p> <p>傍聴人 1人</p>
議事	<p>（1）令和6年度児童館の事業計画（案）について</p> <p>（2）令和6年度学童クラブ事業（案）について</p> <p>（3）令和6年度子ども家庭支援センターの事業計画（案）について</p> <p>（4）私立幼稚園の認定こども園への移行について</p> <p>（5）民設民営学童クラブ事業費補助金の補助対象事業の決定について</p> <p>（6）第三期小平市子ども・子育て支援事業計画の策定方針の概要について</p> <p>（7）その他</p>
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和5年度第4回小平市子ども・子育て審議会 会議次第 ・ 資料① 令和6年度児童館事業計画（案）について ・ 資料② 令和6年度 学童クラブ事業（案）について ・ 資料③ 令和6年度 小平市子ども家庭支援センター事業計画（案）について ・ 資料④ 私立幼稚園の認定こども園への移行について ・ 資料⑤ 民設民営学童クラブ事業費補助金の補助対象事業の決定について ・ 資料⑥ 第三期小平市子ども・子育て支援事業計画策定の基本方針 ・ 資料⑦ 学童クラブ費改定の検討結果について

記録の作成者	子ども家庭部子育て支援課
1. 開会	
2. 議事	
(1) 令和6年度児童館の事業計画(案)について	
会長	それでは、会議 次第2の議事(1) 令和6年度児童館の事業計画(案)につきまして、事務局から説明をお願いします。
事務局	<p>令和6年度事業</p> <p>令和6年度は事業計画(案)の4に記載のとおり、乳幼児から中高生世代までそれぞれの年代が充実した活動が行えるような内容を実施していく予定です。令和5年度中は大型行事を含むほぼ全ての行事を再開することができましたので、令和6年度以降も継続して実施します。</p> <p>新規・拡充行事</p> <p>地域のボランティアや団体との繋がりを持った行事を展開していく予定です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ボードゲームを楽しもう」 新規 <p>花小金井南児童館で小学生児童を対象にボードゲームを活用した行事を実施します。地域のボランティアの方に協力してもらい、児童の遊びを広げ、交友を深めていくことを目的とします。低学年向けの簡単にできるものから始めて、参加者の様子を見ながら実施内容を定めていく予定です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地域連携行事」 拡充 <p>小川町二丁目児童館では既存の行事を拡充します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・白梅学園短期大学の長井ゼミによる乳幼児向けイベントを実施します。大学生が主体となり、クリスマスイベントを行います。令和4年度と5年度に試験的に実施し、利用者にも非常に好評であり、大学生の活動の場としても、異年齢交流の場となっています。 ・外遊び活動やスポーツ活動において、地域の専門団体を講師に招き、小学生が新しいスポーツ等に出会うきっかけづくりを目的に実施します。令和6年度はラグビーやスポーツチャンバラを実施予定です。 ・父親向けに実施しております「パパも！」は土日の父親利用の増加にもつな

	<p>がっており、利用者アンケートを通して要望が多いことから、日曜日の開催を増やし、月2回の実施とします。</p> <p>再開する行事</p> <p>昨年度再開することのできなかった行事を令和6年度より再開予定です。当該行事を持ってコロナ禍以前に実施していた行事は基本的にすべて再開した状態となります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ランチタイム <p>利用者アンケートからも要望が多かったランチタイム事業を3館で再開いたします。小学生の長期休み期間の孤食防止、乳幼児親子の居場所づくりを目的にお昼の時間帯の飲食スペースを提供します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3館合同行事 <p>市内児童館3館の連携強化や児童同士での交流を広げることを目的に実施いたします。小学生の遠足、及びスポーツ大会を計画しています。</p> <p>継続行事</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「BP2」「BP」「ハッピータイム」 <p>西田講師（元花小金井南児童館館長）による子育て講座・親子の絆づくりプログラムとなります。初めての赤ちゃんを持つ母親向けのBPと、第2子が生まれた母親向けのBP2をそれぞれ実施します。引き続き年間36回の実施をし、新生児を持つ親子のサポートに努めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「こども会議」事業 <p>小学生児童の意見を述べる場の提供として各館にて学期に1回ずつ「こども会議」を引き続き実施します。小学生の意見をより実現できるような形態に変化させていきたいと考えています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「あおぞら児童館」 <p>各館にて月1回近隣公園を使った外遊びプログラムを継続して実施します。</p> <p>利用人数</p> <p>基本的にはコロナ禍前の水準に戻っており、3館合わせて11万人程度の利用見込みとなっています。</p>
会長	<p>ただ今説明があったことについて、ご意見ご質問等がございましたらお願いいたします。</p>

委員	市内の児童館数について、市内東側に1館、西側に2館となっています。私は市の中央に住んでいるため、児童館のようなこどもの居場所が家の近くにあると、とてもいいなと思います。特に仲町周辺ですと小学生の放課後の遊び場、居場所が公園ぐらいしかありません。市でこれ以上児童館を増やすことは難しいのでしょうか。
事務局	児童館につきましては、市内に3カ所ありますが、現時点で新たな建築の予定はありません。
会長	児童館という形態も重要ですが、それ以外のかたちでも市内全てのこどもたちの居場所づくりが今後の課題になってくると思いますので、継続して検討していただくをお願いします。
委員	児童館の活動がコロナ禍以前のように活発な状況に戻られたというのはいいなと思いますが、先ほどお話があったとおり使いたくても距離の問題で、なかなか足が運べないという保護者の声もお聞きします。子育て支援となると、児童館だけでなく多岐にわたる活動が市内にもあります。幼稚園関係者もこどもの居場所事業に関する東京都の補助金などを活用させていただいて、何かできないかということをご何年か考えており、もう少し小さな地域に根付くこどもの居場所、保護者の居場所、学校に通えない小学生や中学生が学習できるような場所というようなものが作られると、保護者の気持ちが安らぐと思いますし、こどももそれをきっかけに、社会に出ていくことが出来ることもあると思っています。幼稚園協会と一緒にこどもの居場所事業を市と相談して、これから立ち上げていけたらいいなと思っていますが、いかがでしょうか。
事務局	東京都の補助を活用してとのことのお話もありましたが、こちらとしてもお手伝いできる部分があれば対応したいと思います。
委員	子ども食堂も含め、小規模で心がほっとする場所の在り方に関して、今後保育園協会と幼稚園協会とお話をさせていただきたいと思っています。よろしくお願いします。
事務局	こどもの居場所に関して、先ほどお話ありました不登校の児童というところで、まだ事業としての展開までには至っていませんが、不登校の家庭を持つこどものグループを先月児童館にお招きしています。これから居場所となるよう、受け入れ体制を現在整えているところです。

委員	<p>私の住んでいる地域も児童館が少し遠くて行きにくい場所にあり、児童館が増えてほしいと思います。代わりとして、子ども広場が各地域センターなどで開設されたときはとてもうれしかったです。子ども広場について、こどもが幼稚園に通っていたときは時間があって行くことが出来ましたが、小学生になり授業や習い事などで時間がなくなってくると、遊びに行く機会が少なくなりました。先ほどからお話しにもあがっていますが、気軽に足を運べるような場所が少しずつでも増えると助かります。また、市内でも子育てに関する活動が色々あると思いますが、保護者の方によっては知らなかったり、コロナ禍で孤独だったからもっと早く知りたかったと思っている方もいたようです。子ども広場などでは、お便りなどが配られていると思いますが、行政以外の個人レベルでやっているイベントなども、分かりやすい形で集約してお知らせいただけたらと思います。また、児童館で実施されている行事ですけれども、オンラインでやることは可能でしょうか。用事などで参加できないけれども人とのつながりは欲しいときや、緊急事態宣言のような隔離された状態になることは減多になくても、定期的なイベントにいつでもオンラインで参加できるということは一つの安心材料になると思うので、利用したい方もいるのではないかなと思います。</p>
事務局	<p>子育て情報の提供に関しまして、子ども広場において令和5年度から利用者支援事業を始めています。利用者支援事業では、相談機能を有するものとして事業を開始しており、その中の一つとして、利用者の方が地域の子育て情報などを見ることができる掲示板を作成しているところです。利用者支援事業については、常設子ども広場6施設で実施していますので、どこまで情報を収集できるのかという課題はありますが、利用者の方にとって有用な情報を一つで見ることができるものとして考えています。もう一点、児童館のオンライン事業ですが、現状実施する予定はありません。設備や準備が必要となることから、まずそのようなことから検討しなければならないと考えています。</p>
委員	<p>今、情報がなかなか伝わってこないというお話ですが、私は子育てガイドをいつも持っていて、こちらの方から情報を得ています。児童館の情報や、遊び場、保育園とか、公共の施設などの情報がいろいろ掲載されていますので、とても参考になると思います。この子育てガイドをどこで配布しているのか分からないのですが、これが行き渡っているのであれば、子育ての情報がもっと伝わっていくのではないかと思います。</p>

事務局	子育てガイドについては公共施設などで配布するとともに、こどもが生まれた方すべてに対して配布出来るよう努めています。
委員	公共施設に置いてあるだけですと、手にする方がどのぐらいいるのかなと感じます。また、生まれたときに渡されるのであれば、子育てガイドを見る余裕がないのではないかと思います。例えば、3歳児検診などで配布されると、もっと身近なものとして、保護者の方も見る余裕ができるのではないかと思いますので、配布の工夫をしていただければと思います。
事務局	少し説明不足となってしまいましたが、子育てガイドに関しましては病院などでも配布しており、そちらの方で手に取る方が多いという状況となっています。3歳児検診での配付については配布部数も含め、検討をしたいと思います。
委員	子育てガイドについては、私もよく拝見していました。お話のとおり、配布されたタイミングというのが、出産直後で一番時間がないときでした。その後に配布されたのが小学校に上がったタイミングで、幼稚園のときにそういったガイドがあると助かるという方が多いように感じます。私も訪問のときや検診のときに何回か相談させていただく機会がありましたが、こどもが幼稚園にあがり、自分の時間ができたときに自分で調べて初めてショートステイ事業というものがあるということがわかったことがあります。もし、3歳児検診などで配布していただければ、配布だけでなく、ガイドの使い方や、実際にページを開いて見ていただくことで、保護者の方も活用しやすくなるのかなと思います。
事務局	令和6年度から、母子保健分野と児童福祉分野が一体となって事業を進めていく子ども家庭センターを設置しますので、いただいたご意見なども参考に周知の方法などについて考えたいと思います。
会長	ありがとうございました。では、令和6年度児童館の事業計画（案）については、ご了解いただけたものといたします。
（2）令和6年度学童クラブ事業（案）について	
会長	それでは、会議 次第2の議事（2）令和6年度学童クラブ事業（案）につきまして、事務局から説明をお願いします。
事務局	1 学童クラブの新設 小平市立花小金井小学校の増築に合わせて、小平市立花小金井小学童クラブ第三を新設する予定です。令和6年度は新設工事を行います。 定員は40名を予定しており、令和7年4月1日の開所を予定しています。

2 指定管理者制度の導入

小平市立七小学童クラブ第二及び小平市立七小学童クラブ第三に、指定管理者制度を導入します。選定については、公募選定で行いました。定員ですが、七小学童クラブ第二、第三ともに40名です。指定管理者は、シダックス大新東ヒューマンサービス株式会社で、指定管理期間は令和6年度から令和10年度までの5年間です。

3 直営クラブでの延長保育試行実施

令和6年度より、直営の小平市立鈴木小学童クラブで、試行的に延長保育を実施する予定です。これまで、延長保育は指定管理者制度の導入により順次実施してきましたが、鈴木小の学童クラブは学校の体育館準備室の1クラブのみで、鈴木遺跡の保護の関係から、今後新たに学童クラブ室を増設することは困難な状況であり、指定管理者制度の導入が見込めないため、既存の直営クラブで延長保育を実施することとしました。

4 民設民営学童クラブの誘致

小平市の補助を受けて、令和6年度に開設する民設民営学童クラブを募集した結果、ロケットスクール小平の1クラブの誘致が決定しました。詳細につきましては、このあと、議事（5）で説明します。

5 計画の推進予定

令和5年度につきましては、民設民営学童クラブを含めた数字ですが、確保数が47か所で、確保方策の44か所を上回っています。内数として民設民営学童クラブの施設数も併記しています。

令和6年度につきましては、確保方策45箇所に対し、確保数は、民設民営学童クラブの新たな開設を含めて48箇所となっています。

最後に、資料にはありませんが、2点、報告します。

始めに、学童クラブにおける宅配弁当サービスの試行実施について報告します。宅配弁当サービスの試行実施については、令和5年度の夏休みに一部の指定管理クラブで試行実施を行い、その後、直営クラブと残りの指定管理クラブを含む全ての公設の学童クラブにおいて、令和5年度の冬休みと春休みに試行実施をしています。令和6年度の夏休みからは、この試行実施の結果を踏まえて、本格実施を行う予定です。

次に、令和6年度の入会状況について報告します。

令和6年度の入会申請につきましては、令和5年10月16日から12月1日ま

	<p>で募集を行いました。</p> <p>その結果、令和6年度4月1日は、定員1,760人に対し、2,350人が入会する予定です。例年どおり、入会申請期間中に申請をいただければ、待機することなく受入れています。</p> <p>なお、令和5年度4月1日の児童数につきましては、2,296人でしたので、令和6年度は、55人ほど増加した結果となっています。</p>
会長	<p>ただ今説明があったことについて、ご意見ご質問等がございましたらお願いいたします。</p>
委員	<p>花小金井小学校の増設に合わせて学童クラブ第三を新設するということが、花小金井小学校の児童数が増えたことから、学童クラブ第三を新設するという理解でよろしいでしょうか。</p>
事務局	<p>花小金井小学校においては、児童数が増加傾向にあることから増設を行います。現在、花小金井小学校では第一クラブと第二クラブの運営をしていますが、学童クラブに入会する児童も多く、定員を超えて受け入れている状況です。そのため、学童クラブ第三を作る必要があり、新設により十分な受け入れ体制が組めるものと考えています。</p>
委員	<p>お話を伺い、いろいろなニーズに合わせてやっていることが分かりました。鈴木小学童クラブの延長保育についても保護者にとって、とても安心できるものだと思いますので、この取り組みはとても良いなと思いました。また、宅配弁当の実施についても、保護者の方からとてもありがたいというお話を伺っており、保護者にとってとても良い支援になるのではないかと思います。保育園に通う子供たちは、学童に行く場合がとても多いので、各学童クラブで受け入れが保障されていることはとてもよいことであると思いますが、次は質のところ、どのような場所や時間でこどもたちが生活するのか、また友達関係であったり、多くの問題もあると思いますが、何か課題であったり、今考えていることがあれば教えてください。</p>
事務局	<p>まずは児童の受入れを優先して行っている中で、やはり課題の一つとしては、スペースの確保があります。市では、学校の中に学童クラブがあるということを活かして、教室を放課後にお借りするなどの協力を学校にいただいて、スペースの確保に努めています。体育館や校庭については比較的使いやすい状況ですので、学校の施設を活用しながら、こどもたちにとって安心で安全な保育をしていきたいと考えています。また、現在は民間事業者が管理運営する指定管理クラブを多く導入して</p>

	いる状況ですので、指定管理クラブのイベントに直営のクラブも一緒に参加するようなかたちで、民間事業者のノウハウも活用して、学童クラブでの生活がより充実するような工夫をしていきたいと考えています。
会長	では、令和6年度学童クラブ事業（案）については、ご了解いただけたものいたします。
（３）令和6年度子ども家庭支援センターの事業計画（案）について	
会長	それでは、会議 次第2の議事（３）令和6年度子ども家庭支援センターの事業計画（案）につきまして、事務局から説明をお願いします。
事務局	<p>子ども家庭支援センターは、令和6年度も引き続き、0歳から18歳のこどもと家庭に関するあらゆる相談・児童虐待に関する相談を中心に子育てを地域において総合的に支援していきます。</p> <p>新しい取り組みとしましては、3点あります。まずは、利用者支援事業として、ひろばに「子育てコンシェルジュ」を配置し、気軽に相談できる窓口としてご利用いただけるよう努め、必要に応じて最適な相談先に繋いでいきます。また、他の施設の「子育てコンシェルジュ」とも連携していければと考えています。</p> <p>2点目は、虐待対策ワーカー1名の増員です。閉所日の月曜日にも職員2名を配置し、必要な対応を行います。</p> <p>3点目は、「子育て世帯訪問支援事業」です。今年度までの「養育支援ヘルパー派遣事業」の内容を拡大したもので、法改正に伴い、名称も「子育て世帯訪問支援事業」としました。対象年齢をこれまでの小学生から18歳までに引き上げ、ヤングケアラーや虐待予防の観点から、必要だと思われるご家庭に支援が届くようにしていきます。</p> <p>令和5年度に引き続き、ヤングケアラーに関する普及啓発事業も行います。今年度、子育て支援課とともに作成した、小学生向け、中学生以上向けの1分間動画も活用していければと考えています。</p> <p>平成16年から指定管理を受けておりました社会福祉法人雲柱社が、令和6年度から令和10年度まで引き続き指定管理を受け、運営を続けます。令和6年度も小平市のこども達、ご家庭が少しでも安心して過ごしていけるよう地域の皆様と連携しながら努めます。</p>
会長	ただ今説明があったことについて、ご意見ご質問等がございましたらお願いいたします。

委員	<p>子ども家庭支援センターについては、学校との高い連携が必要な機関であると認識しています。その意味では、事業内容の拡充やニーズにいかに応えていくかという配慮がさまざま行われていますが、社会的ニーズの高まりを考えると人的な充実も大切になってくるのではないかと考えています。今後も管理運営は、社会福祉法人の方に引き続きやっていただけるということで、期待も高いところですが、市が管理運営を支援するにしてもニーズが少ないと、なかなかこのニーズに応えられないかと思うので、学校としても全面的に、子ども家庭支援センターとの連携や、支援はしていきたいなと思います。市全体でこどもの命を守るとか、こどもの成長をしっかり下支えをしていくなど、行政のさらなる支援の充実を図るため、人的な支援をよろしくお願いします。</p>
事務局	<p>市における管理運営への支援として、児童虐待への対応ですが、これまで6人体制で実施していたところ、令和6年度から1名増員し、7人体制とします。また、相談機能については、子育て支援ワーカー3人で対応していましたが、令和6年度より利用者支援専門員1名を配置しまして、4人で様々な相談に応える形で実施していきたいと考えています。</p>
委員	<p>ヤングケアラーについてのチラシやポスターを見かけることはよくありますが、当事者自身が該当していないと思っていることがあると感じています。学校と連携し、ヤングケアラーに対する認識を広めるということは可能でしょうか。また、子ども食堂についてですが、実施している場所に行きにくいとか、行っていることを知られたくないというような意見もあると伺っているので、今の方法でも十分利用者がいると思いますが、そのような子どもたちの自尊心を傷つけないかたちでの提供の方法があると良いのではないかと思います。</p>
委員	<p>学校では現在、教育課題が山積しており、学校にかかる多くの期待や要望があるのが現実です。ただ、今話があったように、ヤングケアラーに該当するような子どもたちが、知らない間に色々なことをやっている状況というのは、今までもあったのではないかなと思います。ヤングケアラーに特化したものではありませんが、各学校には東京都のスクールカウンセラーが配置されていますので、あらゆる相談や課題等の解決のために子どもたちとの会話をし、また、担任からだけでなく校長から全校朝会などでヤングケアラーに関する話題をすることはできるかと思います。子どもたちが、これはちょっと難しいなとか、これは困っているなということが、あらゆる機会に受け止められる、そういう学校づくりが今求められていると思</p>

	<p>いますので、引き続き、今のニーズにあった実態を、しっかりととらえられるようにしていきたいと考えています</p>
事務局	<p>ヤングケアラーについては、令和5年度に学校向けに研修を行い、連携をしたところですが、令和6年度については、こどもに知ってもらうため、学校へ出向くような方法で、周知に努めてまいりたいと考えています。子ども食堂の件については、確かに行きにくいというお話があります。これらに関しては、子ども家庭センターに子どもサポーターという方がいらっしゃいまして、子ども食堂の食事を配達したりするなどの支援を行っています。</p>
会長	<p>それでは、令和6年度子ども家庭支援センターの事業計画案については、ご了解いただけたものとさせていただきます。</p>
<p>(4) 私立幼稚園の認定こども園への移行について</p>	
会長	<p>それでは、会議 次第2の議事(4) 私立幼稚園の認定こども園への移行につきまして、事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>平成18年10月に「就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律」が施行され、認定こども園制度が新たに開始されました。認定こども園は、就学前の子どもに教育と保育を提供する機能と地域における子育ての支援を行う機能を伏せ持つ施設として、平成27年度に開始した子ども・子育て支援新制度の対象となり、国、東京都において、普及促進が図られています。</p> <p>市内では、平成19年9月に幼稚園型の認定こども園が1園開設され、令和6年3月現在で、4つの幼稚園型の認定こども園があります。</p> <p>市としましては、3歳児以上でも保育ニーズが高まっていることが伺えることや、市内の認定こども園では、保育を必要とする児童が増加傾向で、定員いっぱいに受け入れている状況もあり、認定こども園の拡充が課題の1つと捉えていました。</p> <p>また、待機児童解消に向けたあらゆる対策の1つとして、従来型幼稚園の認定こども園化を進めています。</p> <p>資料④をご覧ください。この度、2園の従来型の私立幼稚園が、令和6年4月に、幼稚園型の認定こども園へ移行します。</p> <p>まず、上段の「小平神明幼稚園」が、「小平神明こども園」へ移行します。現行の3歳児から5歳児クラスに加え、認可外保育施設「神明けやきこ保育園」を併設し、1歳児、2歳児の各12人を受入れ、全体の定員は284人の認定こども園</p>

	<p>となります。</p> <p>次に、下段の「小平みどり幼稚園」が、「小平みどりこども園」へ移行します。現行の3歳児から5歳児クラスに加え、認可外保育施設「わかば保育園」を併設し、1歳児、2歳児の各12人を受入れ、全体の定員は339人の認定こども園になります。</p> <p>2つの認定こども園は、増築工事が完了し、令和6年度の入園予定者は決定しています。今月中には、東京都から、正式に認定証が交付される見込みです。この度の移行により令和6年度、市内の認定こども園は6園となります。</p> <p>私立幼稚園の認定こども園への移行に関する説明は以上ですが、関連する事項で、大きく5点、情報提供があります。</p> <p>1点目は、「令和6年度 保育施設等の定員変更」です。</p> <p>令和6年度は、認定こども園では、小川東町の「まるやまこども園」が定員の変更を行います。具体的には、保育の必要性がなく、教育ニーズが高い、1号認定の利用定員を、満3歳を2人減員、3歳を28人減員、4歳を10人増員、合計で20人減員します。保育の必要性のある2号認定は、4歳を10人減員します。まるやまこども園全体の利用定員は、320人から290人に変更します。認定こども園の定員変更については、当該園のご理解のもと、より保護者のニーズに沿った受入れが確保できるよう、柔軟に対応していきます。</p> <p>認可保育園では、公立保育園の民間移行に伴い、公立保育園3園を定員変更します。「仲町保育園」が1歳児の受入れを停止し、2歳児を18人から6人に、4歳児を30人から24人に、全体の定員は108人から84人に 変更します。</p> <p>「花小金井保育園」が1歳児の受入れを停止し、2歳児を18人から6人に、全体の定員は91人から73人に変更します。</p> <p>「津田保育園」が1歳児を12人から8人に、3歳児を30人から26人に、全体の定員は120人から112人に変更します。</p> <p>公立保育園の民間移行については、この審議会でも委員の皆様からご意見を伺ったところですが、仲町保育園、花小金井保育園については、令和6年度末をもって、津田保育園については令和7年度末をもって、閉園することを、現在、市議会において審議されています。民間移行にあたっては、該当公立保育園に在園している児童が民間の移行園に移転します。その際に、影響がないよう、安心してスムーズに移管園に移行が進むよう、保護者、移管先法人と協議していきます。</p>
--	---

	<p>2点目は、「令和6年度認可保育園等の入園申込みの結果」です。</p> <p>申込者数は、入園・転園を含めた参考人数ですが 1, 498人で、昨年の1, 502人と比べ、4人減少しております。ほぼ昨年と同様の状況と捉えています。</p> <p>現在、1次、2次の入所選考は終了し、内定者には内定通知を送付し、保護者の皆様には、入園に向けた手続き等を進めていただいております。内定に至らなかった方には、入所保留の通知を送付しています。待機児童数の確定は、新年度の4月に入ってからとなりますが、待機児童の解消に向けて、保護者へのご案内など、丁寧に事務を進めます。</p> <p>3点目は、「保育所における医療的ケア児の受け入れ」です。</p> <p>医療的ケア児については、令和3年9月に「医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律」が施行され、地方公共団体は医療的ケア児及び その家族に対する支援に係る施策を実施する責務を有すると規定されました。また、保育所等の設置者、各保育園においても、医療的ケア児に対して適切な支援を行う責務を有することとされました。</p> <p>本市におきましては、医療的ケア児の円滑な受入れが図られるよう、昨年7月に「医療的ケア児の保育所受入れガイドライン」を策定しました。</p> <p>今年度は、私立認可保育園で1人が在園していますが、来年度から、この「ガイドライン」に沿って、医療的ケア児の本格的な受入れを開始します。</p> <p>具体的には、現在在園している1人に加えて、令和6年度は、公立保育園で2人を受入れ、合計3人の児童に対応します。</p> <p>来年度以降、さらなる入園希望が見込まれることから、受入れの拡充について検討します。</p> <p>4点目は、「多様な他者との関わりの機会の創出事業の実施」です。</p> <p>この事業は、東京都の制度を活用し、保護者の就労等の有無にかかわらず、在宅で子育てをしているすべての家庭を対象に、市内の教育・保育施設で、未就園児の定期的な預かりを令和6年度から新たに実施する予定です。</p> <p>具体的には、1歳から2歳までの未就園児が週1回から2回程度、定期的に園に通い、多様な他者との関わりのなかで、様々な体験や経験を通じて、健やかな成長を図るとともに、在宅で子育てをされている家庭を支援します。</p> <p>現在、実施に向けて、教育・保育施設と調整していますが、幼稚園の複数の園で</p>
--	---

	<p>実施していただく予定ですが、実施施設、定員、スケジュール等が決定次第、改めて、ご報告します。</p> <p>5点目は、令和4年度の第1回及び第4回で報告しました「まなびの森保育園花小金井の園庭縮小」の件について、進捗状況を報告します。</p> <p>当該園は、令和4年4月に当初計画に比べ園庭が縮小した状況で開園しています。認可権者である東京都が設置する東京都児童福祉審議会からは、認可承認に当たっての付帯意見として「当初事業計画どおり、園庭の設置が進むよう市で指導を行うこと」とされています。令和4年度の第4回報告時点では、事業者には園庭面積拡張に向けた地権者との交渉状況の報告と代替策となる戸外活動に係る計画の提出を文書で求めたが、回答がないという状況でした。</p> <p>その後、事業者の方と直接会って複数回ヒアリングを行いました。その中で、戸外活動に係る計画書は提出され、地権者との交渉が継続していること、代替地の検討を進めていることを市として確認しました。現時点において、土地の購入、園庭拡張には至っていませんが、引き続き、戸外活動の継続、地権者との交渉、代替地の検討を進めていくよう、事業者を指導していきます。</p>
会長	<p>ただ今説明があったことについて、ご意見ご質問等がございましたらお願いいたします。</p>
委員	<p>認定子ども園の移行について4月から2園の移行ということで私たちも応援していますが、一つ確認をさせて下さい。お話の中で、私立幼稚園の認定子ども園化を進めているというようなお話がありましたが、私はそういう認識は持っておらず、各園の教育と保育の充実を図って、新しい施設とした方が、より皆さんのためにお役に立てるのではないかと、というような立ち位置で考えています。考え方が、進められているからやっているのではないということを申し上げたいと思います。行政の協力が必要であることは十分承知していますが各園も私学の精神に則りまして、私学としての幼稚園の良さということを保持してやっていきたいと思っています。</p>
事務局	<p>委員がおっしゃる通り、市も認定子ども園に移行するにあたっては、まずは各園の意向を最優先としています。ただ、保育需要が増えるなか、待機児童対策をどのように進めていくかという施策の一つとして捉えています。今回も1歳児と2歳児を受け入れていただいたという点がありますので、あくまでも法人さん各園の意向を尊重しながら、今後も進めたいと考えています。</p>

委員	<p>昨今、幼稚園の変容が多岐にわたっていることから、選ばれる保護者の方がよくわからないというような現象が出てきていると思っています。もともとの私立幼稚園のスタイルは3、4、5歳を教育することでしたが、世の中の変容や、保育のニーズに応じて幼稚園は預かり保育というようなものを充実して、大体の園は朝7時半から保育が終わって6時半まで、年末年始以外の休業中も預かりをやっているような状況になっています。ですので、幼稚園も保育園並みにこどもを預かる施設になっているという認識は持っていただきたいなと思います。認定こども園の特徴として、1歳、2歳に関しては、認定こども園に移行した幼稚園がニーズに応えるということで行っているということをご理解いただきたいと思っています。また、満3歳児の入園も増えていきますし、それから1歳、2歳の先ほどの対応などというなお話もありましたが、これに関しては、具体的に協力できればと思っています。小平市のこどもたち、保護者にとって、幼稚園もかなり間口を広げてお子さんを預かれる体制を整えているということで、認定こども園でないとかやっていないという認識を持ていただきたい我不想ちです。保護者が選べるよう色々なことをやっていますので、保育園や幼稚園、家庭的保育など、すべてがお子さんの支援という立場になっているということをご理解いただきたいと思っています。</p>
委員	<p>私自身はこどもを東京都の認証保育園に預けて、3歳から幼稚園にうまく移行できたので、ずっと仕事をしながら幼稚園に入ることが出来ました。ただ、幼稚園から預ける保護者の場合、この認定こども園の制度を考えると、もう働く機会がなくなってしまう方も多く出てくるのではないのでしょうか。小平市内の保育園は増えているため、確かに入りやすくなったのですが、例えば出産で仕事をリタイアしてしまって、また新しく仕事を始めようとなったときに、再挑戦しづらいという環境がまだ残っているという声が多々あります。今の日本では女性もキャリアを継続しつつ子育てもするという流れにある中で、ニーズと現状がちょっと合っていないのではないかと感じる部分があるので、色々な選択肢を用意していただきたいと思っています。幼稚園の良さというのはいろいろなところがあるので、あまりその幼稚園の良さを奪われてしまうのもちょっと悲しいなという感じがします。</p>
事務局	<p>おっしゃるように、ご家庭の事情は様々あり、また、そのニーズも多様なも</p>

	<p>のとなっていると認識しています。そういった意味では、認定こども園については1歳から5歳まで継続して同じ園に通えるという点もありますし、認定こども園の中でも1号、2号、3号と分かれていまして、いわゆる1号は従来型の教育でこどもたちを預かる場所、2号、3号はより保育園に近いといえますが、保護者の就労等によって通っていただけるようなところとなっています。市内には既存の従来型の幼稚園、新制度の幼稚園、家庭的保育事業やその他こどもの預かりをする場所もありますので、そういった市民の皆様の多様なニーズに応えられるよう、今後も考えていきたいと思っております。</p>
委員	<p>保育園や幼稚園、その他の施設も含め保護者のニーズに対し、各施設の定員設定や枠組みについて考えていかなければならないなというのを感じました。一点だけ、医療的ケアや、多様な他者との関わりの機会の創出事業など新しい事業や取り組みが本格的に始まっていくと思いますが、いざ始めたときに様々な課題が出てくることが想定されるので、そのあたりをしっかり話しながら進めていくということが大事だなと思っていますので、よろしくお願いいたします。</p>
事務局	<p>医療的ケアについては現在受け入れを進める中で、こどもの症状などが様々なことなど課題が見えていますので、今後も柔軟に見直ししながら進めていければなと思っています。また、多様な他者との関わりの機会の創出事業や、今後、令和8年度からスタートすることが予定されている国の誰でも通園制度など、そのようなサービスを取り入れながら、保護者の皆様と相談して進めていきたいと考えています。</p>
会長	<p>では、私立幼稚園の認定こども園への移行については、ご了解いただいたものといたします。</p>
<p>(5) 民設民営学童クラブ事業費補助金の補助対象事業の決定について</p>	
会長	<p>それでは、会議 次第2の議事(5) 民設民営学童クラブ事業費補助金の補助対象事業の決定につきまして、事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>1 経緯</p> <p>学童クラブに対する保護者のニーズは、安全・安心な居場所としての機能だけではなく、多様化しています。これら多様なニーズに応えられる放課後の居場所を確保するため、令和2年度に民設民営学童クラブへの補助金制度を創設しました。</p> <p>令和6年度に開設する民設民営学童クラブについて、令和5年6月及び10月に</p>

	<p>補助対象事業を募集した結果、市の審査を経て1件の補助決定を行いました。</p> <p>2 補助対象事業の概要</p> <p>資料の通り、1事業の採択をいたしました。まず、場所をご紹介させていただきます。ロケットスクール小平は、一橋学園駅の西側すぐのビルの3階で開所します。運営事業者は株式会社モシーモ、学童クラブ名はロケットスクール小平です。開所予定日は令和6年4月1日で、定員数は40名です。入会対象学年は小学1年生から3年生までですが、定員に余裕があるときは6年生まで受入れをします。主な入会対象校は資料のとおりです。学校からクラブへの送迎サービスを行うと伺っています。学童クラブ費は、午後7時までのお預かりで、月額10,000円です。現時点での入会予定児童数ですが、12名と伺っております。なお、応募件数は令和5年6月に募集の際は2件、10月の募集の際は1件でございました。また、令和6年度においても、令和7年度に新たに開設する民設民営学童クラブを2クラブ募集する予定です。</p> <p>3 保護者への周知</p> <p>上記クラブについては、市ホームページに掲載するとともに、学童クラブの保護者へ周知しました。</p> <p>続いて、資料5の裏面をご覧ください。</p> <p>これは民設民営学童クラブで行われる事業内容のイメージ図です。どのような活動が行われていて、どこまでが市の補助の範囲内であるか、を示したものです。</p> <p>メインの部分が真ん中のマルで、児童福祉法の放課後児童健全育成事業、すなわち小平市で学童クラブ事業と呼んでいるものです。民設民営学童クラブへの補助対象としているものはこの部分となります。</p> <p>次に、左側のマルは多様なサービスで、放課後児童健全育成事業の範囲内ではありませんが、市の公設学童クラブで提供されているサービスの上乗せ・拡充や追加のサービスになります。この部分は補助金の対象外となることが多く、かかる費用については、保護者の実費負担となります。</p> <p>最後に、右側のマルはこどもたちに提供される多様な活動で、放課後児童健全育成事業では提供していないものとなります。習い事に類するものです。かかる費用については、保護者の実費負担となります。</p>
会長	<p>ただ今説明があったことについて、ご意見ご質問等がございましたらお願いいたします。</p>

〈質疑なし〉	
会長	<p>只今説明があった件について、特段ご意見等ないようですので、民設民営学童クラブ事業費補助金の補助対象事業の決定については、ご了解いただけたものと思います。</p>
(6) 第三期小平市子ども・子育て支援事業計画の策定方針の概要について	
会長	<p>それでは、会議 次第2の議事(6) 第三期小平市子ども・子育て支援事業計画の策定方針の概要につきまして、事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>はじめに、この基本方針につきましては、計画の策定に当たって、その趣旨、策定体制及びスケジュール等を明らかにした策定基本方針を、市として、定めたものです。続いて、お手元の資料6に沿いまして、説明を申し上げます。</p> <p>1 計画策定の背景</p> <p>子ども・子育て支援法に基づく、市町村子ども・子育て支援事業計画として、平成27年3月に第一期、令和2年3月に第二期の「小平市子ども・子育て支援事業計画」を策定しました。</p> <p>このたび、第二期計画が、令和6年度末をもって終了することから、令和7年度から11年度までの5年間を計画期間とする、第三期 子ども・子育て支援 事業計画を策定します。</p> <p>2 計画の位置付け</p> <p>子ども・子育て支援法第61条を根拠として策定するもので、計画の策定に当たりますのは、小平市 第四次長期総合計画及び関連する個別計画等との整合性を図ります。</p> <p>3 計画の対象期間</p> <p>現行の「子ども・子育て支援事業計画」終了後の令和7年度から5年間といたします。</p> <p>4 計画策定体制</p> <p>(1) につきましては、市長の附属機関である小平市子ども・子育て審議会から、意見をいただいくことを記載しています。</p> <p>(2) 「市民からの意見・要望の収集」につきましては、計画素案の段階で、市民意見公募手続きを行います。</p> <p>(3) の庁内体制は、庁内関係課で構成する、既存の「小平市 子ども・子育て支援 事業計画 庁内検討委員会」により庁内の調整等を行います。</p>

	<p>5 計画策定上の留意事項</p> <p>(1) につきましては、計画策定の進捗状況を必要に応じて市議会に報告すること、(2) につきましては、子ども・子育て審議会の会議録、資料等を公表すること、です。</p> <p>6 ニーズ調査の実施</p> <p>令和5年度中に、就学前児童及び就学児童をもつ保護者から、幼児教育・保育及び地域の子育て支援に係るサービスの利用状況、利用希望等を聞き、今後の量の見込みと確保方策を設定するにあたっての基礎データとするための調査を実施することを記載しています。</p> <p>7 計画策定スケジュール概要</p> <p>来年度は、子ども・子育て審議会を6回開催し、ご意見をいただきながら、計画案について具体的に検討する予定です。また、市民の皆さまに対しましては、意見公募手続き、パブリックコメントを実施します。</p>
会長	ただ今説明があったことについて、ご意見ご質問等がございましたらお願いいたします。
〈質疑なし〉	
会長	特段ご意見等ないようですので、では、第三期小平市子ども・子育て支援事業計画の策定方針の概要については、ご了解いただけたものといたします。
(7) その他	
会長	それでは、(6) その他 につきまして、事務局よりお願いします。
事務局	<p>資料7「学童クラブ費改定の検討結果について」によりまして、ご説明します。</p> <p>本年度第1回の審議会におきまして、「学童クラブの現状について」として説明をさせていただいた中で、「学童クラブ費の見直し」として、令和5年度に検討を進める旨をお知らせしたところですが、その検討の結果について、報告を申し上げるものです。</p> <p>1 検討の理由（背景）</p> <p>(1) 学童クラブ費については、平成13年度以来の改定を令和元年度に行い、以降は5年程度で見直すこととなり、令和5年度に学童クラブ費の見直しを検討してきました。なお、前回の改定は、平成31年4月から、月額5,500円であったものを月額7,000円としたものとなります。</p>

	<p>次に、(2)ですが、学童クラブの入会児童数は毎年増加し続けていますが、市では待機児童を出さずに受け入れており、そのための施設整備とサービス向上のため運営費も増加し続けている状況です。下の枠の中に、〈前回改定時以降の増加額〉を記載しておりますが、学童クラブ事業について、工事費と、民設民営学童クラブ関係を除いて、令和元年度と4年度の決算額の比較をしますと、約1億7千万円の増となっています。このうち、学童クラブの指導員等の人件費の増が約5千万円、指定管理の委託料の増が約1億2千万円です。</p> <p>このほか、学童クラブ関係の経費としては、民設民営学童クラブ関係で約7千万円の増があるほか、毎年度あるものではありませんが、学童クラブ室新設事業として、記載のとおり経費がかかっています。</p> <p>なお、4月1日時点の入会児童数の推移としましては、令和元年度が1,884人であったところ、令和4年度では2,154人に、270人増えている状況です。</p> <p>次に、(3)ですが、こうした推移の中、国の制度設計では、保護者負担割合を、学童クラブの運営に係る費用の5割とされているところ、現在の学童クラブ費（月額7,000円）は、2割程度となっているところです。</p> <p>2 検討の結果</p> <p>(1) 改定額は、月額で1,000円の増となる8,000円に改定したいという結果です。その根拠ですが、前回の改定時に、当時、保護者負担割合が20%程度であったところ、保護者負担割合が25%となる金額（7,000円／月）に改定しましたが、その後、入会児童数の増により学童クラブの運営費も増となったため、直近の令和4年度決算ベースで、保護者負担割合が20.8%となっています。これを前回のように25%とすると月額8,412円となりますが、ここから千円未満を切り捨て、月額8,000円とするものです。この場合の負担割合は、23.8%となります。(2) 改定の期日は、令和7年4月1日です。</p> <p>令和6年10月からの令和7年度当初入会のご案内の中で、改定後の学童クラブ費を案内していきまして、令和7年度から改定後の学童クラブ費を頂戴することを考えています。</p> <p>本件については、今後、保護者の皆様への説明をしていきます。また、条例改正も必要となりますので、進捗については、機会をとらえて、本審議会にも報告させていただきます。</p> <p>学童クラブ費の改定は、学童クラブを持続的に運営していくために必要なこととご理解を賜りますよう、お願い申し上げます。</p>
--	---

会長	ただ今説明があったことについて、ご意見ご質問等がございましたらお願いいたします。
〈質疑なし〉	
会長	特段ご意見等ないようですので、このことについては、ご了解いただけたものといたします。
事務局	事務局から次回の日程をお伝えします。令和6年度第1回審議会は令和6年5月30日（木曜）午前10時00分からの開催を予定しております。開催場所は市役所5階505会議室です。
3. 閉会	
会長	以上で令和5年度第4回小平市子ども子育て審議会を閉会させていただきます。本日はありがとうございました。